

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年3月28日
【事業年度】	第46期（自平成30年1月1日至平成30年12月31日）
【会社名】	日本エアータック株式会社
【英訳名】	AIRTECH JAPAN, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平沢 真也
【本店の所在の場所】	東京都台東区入谷一丁目14番9号
【電話番号】	03(3872)6611(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 川又 亨
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区入谷一丁目14番9号
【電話番号】	03(3872)9192
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 川又 亨
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高 (千円)	6,998,086	8,084,440	8,858,316	10,166,196	10,190,964
経常利益 (千円)	202,401	514,129	514,000	747,508	586,055
当期純利益 (千円)	138,377	303,934	331,086	517,224	410,240
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	63,206	79,117	79,573	93,345	109,115
資本金 (千円)	1,498,643	1,501,723	1,501,723	1,501,723	1,517,053
発行済株式総数 (株)	9,048,500	9,060,500	9,060,500	9,060,500	9,095,500
純資産額 (千円)	8,833,889	9,042,548	9,160,732	9,583,482	9,857,387
総資産額 (千円)	12,622,646	13,475,508	14,016,206	15,104,767	14,821,869
1株当たり純資産額 (円)	976.59	998.52	1,027.73	1,072.52	1,096.10
1株当たり配当額 (円)	10.00	13.00	15.00	20.00	20.00
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	15.33	33.57	36.93	58.08	45.97
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	15.32	33.55	-	57.98	45.88
自己資本比率 (%)	70.0	67.1	65.3	63.2	66.1
自己資本利益率 (%)	1.6	3.4	3.6	5.4	4.2
株価収益率 (倍)	47.10	19.66	17.55	16.17	12.49
配当性向 (%)	65.21	38.73	40.60	34.44	43.51
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	356,260	174,658	460,045	74,159	83,944
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	225,797	24,165	98,661	322,603	100,252
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	180,744	177,867	61,826	282,933	252,329
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	5,315,189	5,285,038	5,584,084	5,050,212	4,611,581
従業員数 (人)	308	320	329	337	359
[外、平均臨時雇用者数]	[20]	[17]	[18]	[18]	[13]

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第44期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第45期の1株当たり配当額には、創立45周年記念配当4円が含まれております。

2【沿革】

平沢紘介（現会長）は、昭和48年3月㈱日立製作所亀戸工場の移転を機会に同社を退社し、東京都港区六本木に、クリーンエアースystem（クリーンルーム、バイオクリーンルーム等）の企画、製造、サービス等の総合技術の販売を目的として、当社を設立致しました。

年月	事項
昭和48年3月	空気清浄機器の製造及び販売を目的として東京都港区六本木に日本エアータック株式会社を設立。
昭和49年3月	標準型クリーンベンチを完成。同時に低騒音ファン（LNF-1）を開発。
昭和50年2月	エアシャワー装置をはじめ、多くのクリーンエアースystem製品の製造を開始。
昭和51年12月	埼玉県草加市に草加工場を新設。
昭和53年3月	大阪市淀川区（現 北区）に大阪営業所を設置。
昭和54年1月	当社製品の据付サービス業務を行うテック㈱、エアエンジニアリング㈱の設立時に資本参加。
昭和58年6月	無塵衣の無塵クリーニング、各種ワイパーの販売を目的としてクリーンサプライ部を新設。
昭和59年2月	クリーニング用の無塵ランドリー設備を設置、無塵衣のクリーニングを開発。
昭和59年5月	東京都台東区東上野に本社を移転。
昭和59年9月	シンガポールにUTOPIA-AIRE PTE., LTD.（シンガポール）と合併にてAIRTECH EQUIPMENT PTE., LTD. を設立。
昭和60年1月	AIRTECH EQUIPMENT PTE., LTD. とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
昭和61年1月	クリーンサプライ部を分離独立し、クリーンサプライ㈱を設立。
昭和62年2月	福岡市南区に福岡出張所（現 福岡営業所）を設置。
昭和62年6月	仙台市青葉区に仙台営業所を設置。
昭和62年9月	SS-MACシリーズ、ガジェットストッカー、LC型HEPAユニット及びクリーンダストボックス等を開発。
平成元年7月	クリーンサプライ㈱を吸収合併。
平成2年4月	台湾に永傑空調機械公司（台湾）と合併にて富泰空調科技股份有限公司を設立。
平成2年5月	富泰空調科技股份有限公司とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
平成3年11月	（社）日本証券業協会店頭売買銘柄に新規登録。
平成4年2月	岡部工業㈱と合併にてオカベテック㈱を設立。
平成4年9月	群馬県佐波郡赤堀町（現 伊勢崎市）に群馬工場を新設し、オカベテック㈱に貸与。
平成6年3月	中国江蘇省蘇州市に中国蘇州浄化設備有限公司ほか3社と合併にて蘇州安泰空気技術有限公司を設立。
	同社とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
平成6年11月	名古屋市中村区に名古屋営業所を設置。
平成7年7月	米国オレゴン州ヒルズボロ市にクリーンエアースystem製品の製作子会社AIRTECH INTERNATIONAL MANUFACTURING, INC. を設立。
平成7年9月	高性能フィルター（HEPA）の内製化開始。
平成8年2月	家庭用空気清浄機エアロケアの製造販売を開始。
平成8年5月	AIRTECH INTERNATIONAL MANUFACTURING, INC. とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
平成9年7月	東京証券取引所市場第2部に株式を上場。
平成9年8月	東京都台東区入谷に本社ビルを建設し移転。
平成10年3月	オカベテック㈱を吸収合併、当社群馬工場として発足。
平成10年9月	中国江蘇省呉縣市に中国呉浄化設備公司並びに蘇州浄化設備有限公司と合併にて蘇州華泰空気過渡器有限公司を設立し、エアフィルター技術の供与契約を締結。
平成12年9月	子会社AIRTECH INTERNATIONAL MANUFACTURING, INC. を整理清算。
平成13年3月	草加工場内に研究所を建設、設置。
平成14年3月	中国江蘇省蘇州市蘇州工業園区に蘇州工業園区安泰空調浄化科技有限公司並びに富泰空調科技股份有限公司と合併にて蘇州富泰潔浄系統有限公司を設立。
平成15年10月	群馬工場内に製缶工場建設。
平成16年3月	WOOLEE AIRTECH KOREA CO., LTD. とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
平成16年3月	広島市南区に広島営業所を設置。
平成16年12月	鹿児島県国分市（現 霧島市）に南九州営業所を設置。
平成17年6月	㈱東京証券取引所市場第1部に指定。
平成18年6月	埼玉県加須市に加須工場を建設、設置。
平成19年4月	PYRAMID AIRTECH PVT. LTD.（インド）とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。
平成20年3月	中国合併会社蘇州富泰潔浄系統有限公司の出資の持分を他の法人に譲渡し合併契約を解消。
平成20年10月	草加工場に隣接する土地・建物を購入しサービスセンターを設置。
平成23年6月	中国合併会社蘇州華泰空気過渡器有限公司の出資の持分を他の法人に譲渡し合併契約を解消。
平成23年12月	富山県富山市に北陸営業所を設置。
平成26年6月	群馬工場内に組立工場を建設。
平成27年11月	PEA GMBH（ドイツ）と相互製品の販売提携契約を締結。
平成28年1月	THELONG INTERNATIONAL TECHNOLOGY CO., LTD.（ベトナム）とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結後、THELONG AIRTECH JOINT STOCK COMPANYに社名変更。
平成29年6月	加須工場内に組立工場を建設。
平成29年12月	本社に隣接する土地購入。
平成30年8月	HEMAIR SYSTEMS INDIA LIMITED（インド）とクリーンエアースystem技術の供与契約を締結。

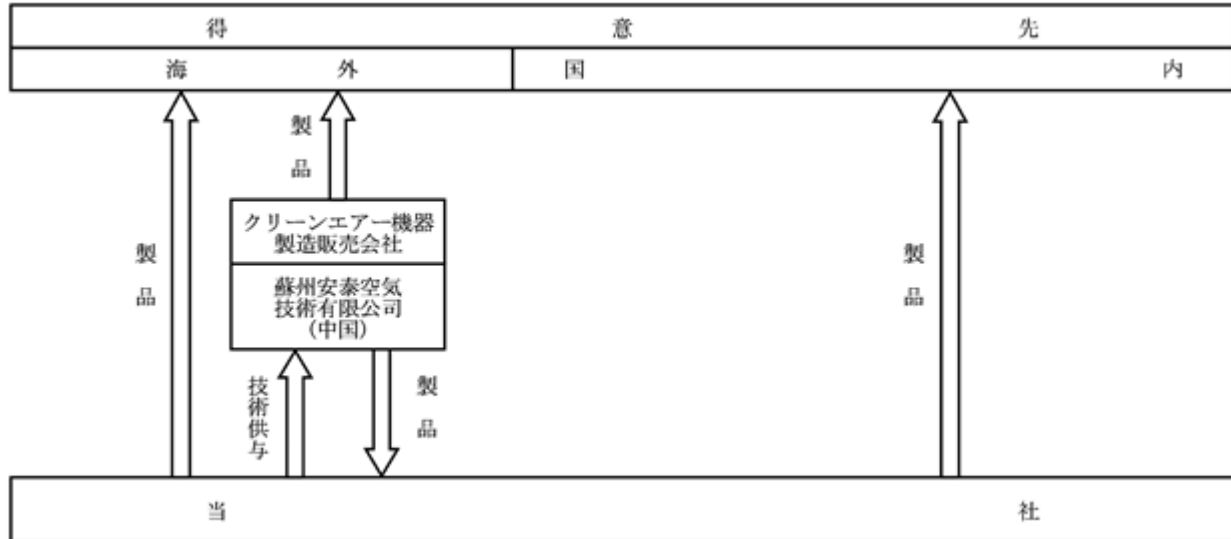
3【事業の内容】

当社グループは、当社及び関連会社1社で構成され、半導体・電子工業分野及びバイオリジカル分野を主な需要先とした、クリーンエアシステムの企画、製造、サービス等の総合技術の販売という単一セグメントに属する事業を営んでおります。

事業内容及び当社と関連会社との関係は次のとおりであります。

会社名	事業内容
蘇州安泰空気技術有限公司 (中国)	当社よりクリーンエアシステムの技術供与をうけ、クリーンエア機器の製造販売を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 当社グループにおける主要製品は次のとおりであります。

品目区分	主要製品
クリーンルーム	パネル式クリーンルーム H E P Aフィルター 内装材
クリーンルーム機器	エアシャワー クリーンエアオープン パスボックス クリーン保管庫 エアカーテン フィルターユニット S S - エアシャワー 食品用エアシャワー パッケージ式クリーンユニット 保冷库用エアカーテン クリーンハンドドライヤー クリーン手洗乾燥機
クリーンブース	アルミ製クリーンブース 鋼板製クリーンブース S S - M A C E C - M A C サーマルクリーンチャンパー S S - クリーンブース
クリーンベンチ	標準クリーンベンチ 簡易クリーンベンチ 卓上クリーンベンチ S S - クリーンベンチ
バイオリジカル機器	バイオクリーンベンチ 無菌手術ユニット 安全キャビネット 無菌治療室 アイソレーター 動物飼育キャビネット 吸引補虫器 (バグキーパー) クリーンパーティション
据付・保守サービス	機器搬入据付 保守サービス 空気清浄機器部品
その他の製品	ドラフトチャンパー 無塵クリーニング アスベスト対策機器
クリーンサプライ商品	無塵衣 ワイパー クリーンペーパー

なお、事業の内容を系統的に分かりやすく説明するための事業部門等の区分が困難なため、事業部門等による区分は明示しておりません。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金または出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合または被所有割合(%)	関係内容
(関連会社) 蘇州安泰空気技術 有限公司(中国)	中国江蘇省蘇州市	800	クリーンエア 機器の製造・販売	25.0	クリーンエア機 器製造における技 術供与及び一部機 器の製造委託

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成30年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
359(13)	43.15	16.46	6,025,739

- (注) 1. 当社は単一セグメントに属する事業を営んでいるため、セグメント別の従業員数は省略しております。
2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
3. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

当社には労働組合が結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社における経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は以下のとおりです。なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものです。

(1)経営方針

当社は、世界をリードするクリーンエアシステムの技術確立し、株主、従業員、関連会社に利益を還元し社会貢献することを目標としております。当社の技術は研究・実験に基づき、今まで蓄積された技術力で顧客ニーズに合致した製品を連続的に創造する専門メーカーとして堅実な成長を続けております。また、社員の評価は創造性を第一としております。

(2)経営戦略等

当社は、電子工業分野やバイオロジカル分野向けに開発した多数の標準機種・準標準機種を有しますので、これらの販売を促進することで、生産効率の向上を図っております。一方、クリーンエアシステムの専門メーカーとして、個々の顧客ニーズに応じた製品の設計・製造を行うことも特徴の一つです。

市場の要求を取り込み、クリーンエアシステムを基に新製品を開発、販売することで、市場の拡大及び当社ブランドの確立を目指しております。

(3)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、持続的な利益を確保し、成長することを目標としております。継続的な成長を目指し新製品の開発に注力し、また生産性の向上やサービス業務の拡大に取り組んでおります。「営業利益」及び「経常利益」を重要な経営指標として位置づけております。

(4)経営環境

電子工業分野は、自動車の自動運転・EV化、次世代通信（5G）、データセンター等の半導体や電子部品を中心に成長しています。また、バイオロジカル分野も、再生医療の進展、食品工場や医薬品の安全志向の高まりにより、安定的に推移することが予想されます。よって、当社を取り巻く経営環境は堅調に推移すると考えております。

しかし、いずれの分野も不透明な海外情勢を受け、予断を許さない状況にあります。そのため、研究開発の促進、生産性の向上、顧客開拓等を着実に進めてまいります。

(5)事業上及び財務上の対処すべき課題

当社では研究開発において、独自の技術を駆使した、他社にない特徴を有する新製品、改良品を顧客に提供してまいります。さらに、顧客ニーズに合致した特殊品は標準化を行い、拡販を図ってまいります。同時に、標準機種の販売比率の増加に努め、利益率の向上を目指します。

製造部門では、競争力強化のために、製缶・塗装、アルミ加工部品、ビニールカーテンの内製化比率を高め、製造原価低減を目指します。また、PTFE（フッ素樹脂）ろ材使用フィルターを含めた高性能フィルターは、内製化比率を高めると同時に外販比率を高めます。

サービスセンターは、安全キャビネット、クリーンブース等のバリデーション検査の売上比率を高め、保守・メンテナンスを行うことにより、顧客の信頼向上を図ってまいります。

また、当社ではISO-9001による厳格な品質管理を実施し、顧客に納得して頂ける高品質な製品作りを継続してまいります。

さらに、高度化した顧客要求に応えるために、役員、部署長による計画的な社員教育を実施し、人材育成に注力してまいります。

2【事業等のリスク】

当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関し、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項は、以下のようなものがあります。

(1) 事業内容及び特定の業界への依存度が高いことについて

当社は、半導体、液晶等の電子工業分野及び医薬品工業、医療機関、食品工業等のバイオリジカル分野を対象に、空気中の汚染制御に関する機器の製造、設置、販売並びにシステムのエンジニアリングを単一セグメントに属する事業として行っております。それぞれの分野に占める割合は下表に記載のとおりであります。当社の業績は電子工業分野及びバイオリジカル分野の国内外の設備投資動向に影響を受ける場合があります。

販売分野	平成28年12月期		平成29年12月期		平成30年12月期	
	売上金額	構成比	売上金額	構成比	売上金額	構成比
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
電子工業分野	4,152	46.9	4,925	48.4	5,259	51.6
バイオリジカル分野	3,703	41.8	4,032	39.7	3,669	36.0
その他	1,003	11.3	1,209	11.9	1,262	12.4
合計	8,858	100.0	10,166	100.0	10,190	100.0

(注)「その他」は最終顧客の分野が捕捉不能な物件の売上金額及び構成比を記載しております。

(2) 競合について

当社製品については、他社との競合が発生します。当社としては基幹部品の内製化、代理店との関係強化、効率的な資材調達や生産性の向上を図ること等で利益を確保する方針ですが、競合による当社製品の販売価格の下落等が当社の業績に影響を与える可能性があります。

(3) 品質管理・製造責任について

当社は、クリーンエアシステムに関してはクリーンルームからクリーンルーム機器及びクリーンサプライ商品に至るまで、幅広い製品を取扱っております。製造部門ではISO-9001による厳格な品質管理を実行し、顧客に納得して頂ける製品作りを継続しております。

しかし、装置の不具合や使用部品の不良等が原因で、顧客の生産や実験に支障をきたす等、顧客に損害が発生する可能性があります。現時点までに製造物責任及び瑕疵担保責任に関する訴訟は生じておりませんが、そのような事態が発生した場合、製品への信頼性低下や損害賠償請求等により業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 災害等について

地震等の自然災害や事故、テロ等により、当社の生産拠点や設備等が損害を受ける可能性があります。この場合、当社の操業が中断し売上高が低下する可能性、生産拠点等の修復または代替のために多額の費用を要する可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要は次のとおりであります。

財務状態及び経営成績の状況

当事業年度における世界経済は、米国及び中国の好調な企業業績、経済施策等により、堅調に推移致しました。しかし、年終盤から米中貿易摩擦、スマートフォンの販売不振、半導体メーカーの減益等、景気後退要素が出てきました。一方、国内経済も、輸出企業を中心に堅調に推移致しましたが、不透明感が出てきました。

当社における事業環境は、電子工業分野では海外における液晶及び有機ELの大型、中・小型パネル製造に関連する設備投資の増加、国内においてはデータセンター用、センサー用半導体、スマートフォン及び車載電子機器関連の部品製造設備投資が増加致しました。一方、バイオロジカル分野では、実験研究施設、再生医療関連及び食品工業等の設備投資が堅調に推移致しました。

このような状況の下、電子工業分野では、液晶・半導体製造装置、搬送装置及び電子部品・素材メーカーを中心に、そしてバイオロジカル分野では、実験研究施設、再生医療関連及び食品工業を主に営業強化を図り、顧客ニーズに合致した製品開発・改良を推進してまいりました。「クールエアシールド（保冷库用エアカーテン）」等、従来製品に特徴を付加した製品開発・改良を行い、営業面では再生医療関連、医薬品関連及び半導体関連の展示会出席等により販売強化に努めてまいりました。

一方、エアシャワーの受注増加を受け、海外での生産も行い、特に標準品、準標準品の製造販売に注力しました。

収益面におきましては、売上増加、大口案件の受注及び標準品の拡販等に努めましたが、材料費の高騰等による製造原価の上昇、荷造り運賃の増加等により、前期比では増収減益となりました。

以上の結果、当事業年度における業績は、売上高101億90百万円（前期比0.2%増）、営業利益4億27百万円（同30.2%減）、経常利益5億86百万円（同21.6%減）、当期純利益は4億10百万円（同20.7%減）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前事業年度末に比べ4億38百万円減少し、46億11百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況はつぎのとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動の結果使用した資金は、83百万円（前期は74百万円の獲得）となりました。これは主に、売上債権3億64百万円の減少があったものの、たな卸資産5億77百万円の増加があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は、1億円（前期比2億22百万円の支出減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得58百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は、2億52百万円（前期比30百万円の支出減）となりました。これは主に、配当金の支払額1億77百万円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

区分	金額(千円)	前年同期比(%)
クリーンルーム	796,233	76.0
クリーンルーム機器	3,278,919	145.4
クリーンブース	2,491,374	83.4
クリーンベンチ	176,398	80.1
バイオロジカリー機器	1,111,082	124.8
据付・保守サービス	2,358,478	100.5
その他の製品	347,011	124.5
計	10,559,498	105.3

- (注) 1. 金額は販売価格で表示しております。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

b. 商品仕入実績

区分	金額(千円)	前年同期比(%)
クリーンサプライ商品	221,117	154.4
計	221,117	154.4

- (注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

c. 受注実績

品目別	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
製品				
クリーンルーム	963,677	83.0	576,310	158.8
クリーンルーム機器	3,395,234	141.6	914,981	172.7
クリーンブース	2,354,981	73.7	584,653	98.7
クリーンベンチ	201,638	89.6	49,604	275.1
バイオリジカリー機器	983,290	96.3	315,631	103.2
据付・保守サービス	2,394,086	98.0	559,923	115.1
その他の製品	324,861	119.7	73,459	119.7
小計	10,617,769	99.1	3,074,563	130.4
商品				
クリーンサプライ商品	280,389	144.1	19,119	64.9
小計	280,389	144.1	19,119	64.9
合計	10,898,158	99.9	3,093,682	129.6

- (注) 1. 金額は販売価格で表示しております。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

d. 販売実績

区分	金額(千円)	前年同期比(%)
製品		
クリーンルーム	750,327	76.0
クリーンルーム機器	3,010,037	130.4
クリーンブース	2,362,904	80.6
クリーンベンチ	170,068	73.3
バイオリジカリー機器	973,434	104.0
据付・保守サービス	2,320,677	99.8
その他の製品	312,764	118.6
小計	9,900,213	99.1
商品		
クリーンサプライ商品	290,750	161.1
小計	290,750	161.1
合計	10,190,964	100.2

- (注) 1. 上記の金額には、輸出版売額 132,528千円を含んでおります。
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりましては、決算日における資産・負債の報告数値及び報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積り及び判断を行っております。過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる様々な要因に基づき見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性により、これらと異なる場合があります。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)	ROE (%)
平成30年12月期	10,190	427	586	410	45.97	4.1
平成29年12月期	10,166	612	747	517	58.08	5.4
増減率(%)	0.2	30.2	21.6	20.7	20.9	24.1

a. 当事業年度の業績全般の概況

当事業年度における業績は、売上高101億90百万円(前期比0.2%増)、営業利益4億27百万円(同30.2%減)、経常利益5億86百万円(同21.6%減)、当期純利益は4億10百万円(同20.7%減)となりました。

売上高が増加した要因は第2[事業の状況]3[経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析](1)経営成績等の状況の概要 財務状態及び経営成績の状況に記載のとおりです。

営業利益、経常利益、当期純利益は減少しました。これは売上高は増加したものの、材料費・荷造運賃の高騰、人員増加を吸収できなかったことによるものです。

法人税等1億75百万円を計上したことにより当期純利益は4億10百万円となりました。

b. 当事業年度の品目別の概況

	売上高(百万円)			売上総利益(百万円)		
	平成29年12月期	平成30年12月期	増減	平成29年12月期	平成30年12月期	増減
クリーンルーム	988	750	238	79	44	34
クリーンルーム機器	2,308	3,010	701	431	577	145
クリーンブース	2,930	2,362	567	758	590	168
クリーンベンチ	232	170	62	62	33	28
バイオロジカリー機器	935	973	37	212	210	2
据付・保守サービス	2,326	2,320	5	673	615	57
その他の製品	263	312	49	69	68	1
製品小計	9,985	9,900	85	2,288	2,140	147
クリーンサプライ商品	180	290	109	27	52	25
合計	10,166	10,190	24	2,315	2,192	122

クリーンルーム

「クリーンルーム」は電子部品・精密機械関連分野及び大学・病院の再生医療研究施設等のバイオリジカル分野いずれも減少し、売上高は前期比24.0%減少となりました。

クリーンルーム機器

電子工業、製薬、食品分野の設備投資の増加に伴い、「エアーシャワー」及び「フィルターユニット」等の売上高が増加し、全体での売上高は前期比30.4%の大幅増加となりました。

クリーンブース

電子工業分野、製薬工業分野向け大型アルミ製「クリーンブース」、及び中国、台湾、韓国メーカー等への「サーマルクリーンチャンバー」は減少しました。また「SS-MAC（多目的に利用されるクリーンユニット）」も減少し、全体での売上高は前期比19.4%の減少となりました。

クリーンベンチ

「クリーンベンチ」は、清浄作業台と呼ばれ、当社の主力製品の一つです。しかし、近年は病原菌等の取り扱いが可能な「安全キャビネット」への移行もあり、全体での売上高は前期比26.7%の減少となりました。

バイオリジカル機器

「アイソレーター」は減少しましたが、「安全キャビネット」「バイオクリーンベンチ」等が増加した結果、全体での売上高は前期比4.0%の増加となりました。

据付・保守サービス

「エアーシャワー」等の現地搬入・据付作業等による売上高は製品の売上高に連動し、全体での売上高は前期比0.2%の減少となりました。

その他の製品

無塵衣を洗濯する「クリーンランドリー」は、前期比8.7%増加となり、また他の機器も増加した結果、全体での売上高は18.6%の増加となりました。

クリーンサプライ商品

クリーンルーム内で使用される「無塵衣」「手袋」等の消耗品及び測定機器は、電子工業分野や再生医療関連への売上が増加し、全体での売上高は前期比61.1%の大幅な増加となりました。

次期の見通し

次期の我国経済は、スマートフォン、半導体分野を主とする景気減速が見込まれており、また消費税増税の影響も危惧されます。個人消費も停滞しており、物価も足踏み状態です。また、米中の貿易摩擦、英国のEU離脱問題、北朝鮮問題等、国際情勢が不透明な状況です。

当社における事業環境は、電子工業分野では、スマートフォンの減速に関連し、液晶・有機EL関連、電子部品分野等の縮小が懸念されます。しかし、当社の受注残高は増加しており設備投資は堅調に推移することが見込まれます。また、自動車の自動運転、IoT、データセンター用、センサー用等に使用される半導体製造関連への投資も期待されます。

一方、バイオリジカル分野では、実験研究施設、製薬工業、病院・医療関連及び食品工業分野への投資が堅調に推移する見込みです。病院・医療分野では、iPS細胞等を使用した再生医療等へ、食品工業では、製造工程の無菌化及び異物混入・防虫対策への設備投資が増加する見通しです。

新製品開発・研究においては、独自の技術を駆使した「安全キャビネット」「簡易クリーンベンチ」等、従来品に特徴を付加した製品開発・改良を行い、販売強化に努めてまいります。

製造部門では、競争力強化のために、製缶・塗装、アルミ加工部品、ビニールカーテンの内製化比率を高め、製造原価低減を目指します。また、PTFE（フッ素樹脂）ろ材使用フィルターを含めた高性能フィルターは内製化の比率を高めると同時に外販比率を高めます。サービスセンターでは、「安全キャビネット」「クリーンブース」等のバリデーション検査の売上比率を高め、保守・メンテナンスを行うことにより、顧客の信頼性向上を図ってまいります。

(3) 当事業年度の財政状態

	平成29年12月期	平成30年12月期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	74百万円	83百万円	158百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	322百万円	100百万円	222百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	282百万円	252百万円	30百万円
現金及び現金同等物に係る換算差額	2百万円	2百万円	0百万円
現金及び現金同等物の増減額	533百万円	438百万円	95百万円
現金及び現金同等物期末残高	5,050百万円	4,611百万円	438百万円
借入金・社債期末残高	628百万円	536百万円	92百万円

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況及び要因につきましては、第2[事業の状況] 3[経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析] (1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況をご参照ください。

なお、キャッシュ・フロー関連指標の推移は以下のとおりです。

	平成27年12月期	平成28年12月期	平成29年12月期	平成30年12月期
自己資本比率(%)	67.1	65.3	63.2	66.1
時価ベースの自己資本比率(%)	44.4	41.2	55.4	34.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	3.5	1.7	8.5	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	31.9	83.7	22.0	-

(注) 自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも財務数値により算出しております。

株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を払っている全ての負債（リース債務を除く）を対象としております。

利払いについては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

平成30年12月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

(4) 資本の財源及び資金の流動性

当社の手元資金活用方法の基本的な考え方は、生産性向上を目的とした設備投資及び顧客ニーズに合致した製品開発投資に備える事であります。

当社は、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当事業年度末における借入金及び社債を含む有利子負債の残高は536百万円となっております。また、当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は4,611百万円となっております。

4【経営上の重要な契約等】

(1) 技術供与契約

契約締結先	内容	契約発効日	有効期間
AIRTECH EQUIPMENT PTE.,LTD. (シンガポール)	クリーンエアースステム技術供与	昭和60年1月10日	昭和61年1月9日 以後自動延長
富泰空調科技股份有限公司(台湾)	クリーンエアースステム技術供与	平成2年5月1日	平成5年4月30日 以後自動延長
蘇州安泰空気技術有限公司(中国)	クリーンエアースステム技術供与	平成20年12月15日	平成45年12月14日 以後自動延長
WOOLEE AIRTECH KOREA CO.,LTD. (韓国)	クリーンエアースステム技術供与	平成16年3月3日	平成18年12月31日 以後自動延長
PYRAMID AIRTECH PVT.LTD.(インド)	クリーンエアースステム技術供与	平成19年4月10日	平成19年12月31日 以後3年毎の更新
THELONG AIRTECH JOINT STOCK COMPANY (ベトナム)	クリーンエアースステム技術供与	平成28年1月29日	平成30年1月31日 以後自動延長
HEMAIR SYSTEMS INDIA LIMITED (インド)	クリーンエアースステム技術供与	平成30年8月10日	平成40年8月11日 以後自動延長

(注)1. 上記については、売上高の一定率をロイヤリティーとして受取っております。

ただし、WOOLEE AIRTECH KOREA CO.,LTD.及びPYRAMID AIRTECH PVT.LTD.につきましては、一定額としております。

2. 蘇州安泰空気技術有限公司は関連会社であります。

(2) 販売提携契約

契約締結先	内容	契約発効日	有効期間
PEA GMBH(ドイツ)	製品の相互販売提携	平成27年11月23日	平成28年11月30日 以後自動延長

5【研究開発活動】

当社は空気調和技術の一環である業務用空気清浄装置等の専門メーカーとして、塵埃または菌やウィルスを制御するためのクリーンエアシステムや、微生物災害を防止するためのバイオリジカルセーフティシステム等の設計、製造、販売を行っております。これらの市場に対し、高性能、高品質、低価格等の顧客の要望に応じた新製品を連続的に提供していくことが不可欠です。当事業年度におきましても、設計本部を中心として研究・開発を行い、その成果は以下のとおりであります。

1．研究

- A．高効率ターボランナー
- B．過酸化水素ガスによる部屋除染技術

2．研究論文発表

JACA（日本空気清浄協会）

- ・保冷庫用エアーカーテンの性能評価（その3）
- ・オゾン等による安全キャビネットの除染剤比較評価

IEST（米国）

- ・熱対流遮断エアーカーテンの性能評価

ISCC（オランダ）

- ・二重隔離気流を有する細胞培養用安全キャビネットIEST（米国）

3．新製品

- A．新型安全キャビネット
- B．新型クリーンベンチ
- C．シートシャッター内蔵型クールエアースールド
- D．新型防虫用エアーカーテン

4．特許

- ・新規申請（8件）、取得（9件）

なお、当事業年度における研究開発費の総額は、1億42百万円となっております。

（注）当社は単一セグメントに属する事業を営んでいるため、セグメント別の研究開発活動については記載を省略しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資の総額は73百万円であり、その主なものは加須工場における製造設備費用35百万円であります。

2【主要な設備の状況】

提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び構築物 (千円)	機械装置及び 運搬具 (千円)	土地(千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計(千円)	
本社 (東京都台東区)	会社管理 販売業務	41,960	-	269,169 (325.76)	1,590	312,720	46(0)
草加工場 (埼玉県草加市)	クリーンエアー システム機器 設計・製造	142,462	9,309	937,037 (6,117.75)	17,799	1,106,609	179(5)
群馬工場 (群馬県伊勢崎市)	クリーンエアー システム機器及 びエアーフィル ター製造	249,102	77,278	375,810 (13,002.82)	4,620	706,811	53(7)
加須工場 (埼玉県加須市)	クリーンエアー システム機器 製造	297,869	61,538	249,300 (6,441.87)	1,504	610,212	36(1)

- (注) 1. 当社は単一セグメントに属する事業を営んでいるため、セグメントの名称別の記載は省略しております。
2. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であります。
なお、金額には消費税等を含めておりません。
3. 従業員数の()は臨時従業員数の年間の平均人員を外書で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

特記すべき重要な事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年3月28日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	9,095,500	9,095,500	株式会社東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	9,095,500	9,095,500	-	-

(注) 提出日現在発行数には、平成31年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

	第6回新株予約権	第7回新株予約権	第8回新株予約権
決議年月日	平成28年3月29日	平成29年3月29日	平成30年3月28日
付与対象者の区分及び人数 (名)	当社取締役 7 当社従業員 87	当社取締役 7 当社従業員 113	当社取締役 7 当社従業員 111
新株予約権の数(個)	710 [690]	1,300 [1,280]	1,290 [1,270]
新株予約権の目的となる株式 の種類、内容及び数(株)	普通株式 71,000 [69,000]	普通株式 130,000 [128,000]	普通株式 129,000 [127,000]
新株予約権の行使時の払込 金額(円)	663	820	901
新株予約権の行使期間	自 平成30年4月16日 至 平成34年3月29日	自 平成31年4月15日 至 平成35年3月29日	自 平成32年4月14日 至 平成36年3月29日
新株予約権の行使により株式 を発行する場合の株式の発行 価格及び資本組入額(円)	発行価格 663 資本組入額 332	発行価格 820 資本組入額 410	発行価格 901 資本組入額 451
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当てを受けた者(以下、「新株予約権者」という)は、権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要するものとする。</p> <p>任期満了による退任、定年退職、会社都合による退任・退職、業務上の疾病に起因する退職及び転籍その他正当な理由の存する場合は、地位喪失後2年以内(ただし、権利行使期間内に限る)または権利行使期間開始日以降2年以内のいずれかの期間に限り権利行使をなしうるものとする。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。</p> <p>その他の行使の条件については、株主総会決議および取締役会決議に基づき、別途当社と新株予約権者との間で締結した「新株予約権割当契約」にて定めるところによる。</p>		
新株予約権の譲渡に関する 事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。		
組織再編成行為に伴う新株 予約権の交付に関する事項	<p>組織再編に際して定める契約書または計画書等の条件に従って、以下に定める株式会社の新株予約権を交付する旨を定めた場合には、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。</p> <p>合併(当社が消滅する場合に限る) 合併後存続する株式会社または合併により設立する株式会社 吸収分割 吸収分割をする株式会社とその事業に関して有する権利義務の全部または一部を承継する株式会社 新設分割 新設分割により設立する株式会社 株式交換 株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社 株式移転 株式移転により設立する株式会社</p>		

当事業年度の末日(平成30年12月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月未現在(平成31年2月28日)にかけて変更された事項については、提出日の前日未現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
平成26年1月1日～ 平成26年12月31日 (注)	20,000	9,048,500	5,133	1,498,643	5,133	1,506,063
平成27年1月1日～ 平成27年12月31日 (注)	12,000	9,060,500	3,079	1,501,723	3,079	1,509,143
平成28年1月1日～ 平成28年12月31日	-	9,060,500	-	1,501,723	-	1,509,143
平成29年1月1日～ 平成29年12月31日	-	9,060,500	-	1,501,723	-	1,509,143
平成30年1月1日～ 平成30年12月31日 (注)	35,000	9,095,500	15,330	1,517,053	15,320	1,524,463

(注) 発行済株式総数の増加、資本金の増加額及び資本準備金の増加額は、新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	19	27	61	39	5	3,505	3,656	-
所有株式数(単元)	-	17,398	1,621	21,277	11,744	16	38,863	90,919	3,600
所有株式数の割合(%)	-	19.14	1.78	23.40	12.92	0.02	42.74	100.00	-

(注) 1. 自己株式154,655株は、「個人その他」に1,546単元、「単元未満株式の状況」に55株、それぞれ含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式を、2単元含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
エアートックアシスト株式会社	埼玉県草加市谷塚町896-13	1,895	21.19
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL (常任代理人 シティバンク、 エヌ・エイ東京支店)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 5LB	834	9.33
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	821	9.19
平沢 紘介	埼玉県草加市	271	3.03
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	262	2.93
近藤 芳史	東京都港区	181	2.03
日本エアートック従業員持株会	東京都台東区入谷1-14-9	159	1.78
近藤 芳世	東京都港区	130	1.46
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	130	1.46
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	119	1.33
計		4,808	53.78

(注) 1. 当社は、自己株式154,655株を保有しておりますが、上記の大株主の状況からは除外しております。

2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数には信託業務に係るものが各々746千株、210千株含まれております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 154,600	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,937,300	89,373	同上
単元未満株式	普通株式 3,600	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,095,500	-	-
総株主の議決権	-	89,373	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権の数2個)含まれております。

2. 平成30年12月31日現在、新株予約権の行使による新株発行により発行済株式総数は35,000株増加し、9,095,500株となっております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本エアーテック 株式会社	東京都台東区入谷 1-14-9	154,600	-	154,600	1.7
計	-	154,600	-	154,600	1.7

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は利益を重視した安定成長により、株主に対する継続的な安定配当の維持に努めます。利益配当資金は、配当性向30%以上を基本としております。

また、内部留保金につきましては長期的な視点に立って、研究・開発投資及び製造設備投資等に充当し、事業の積極的展開・体質強化を図り、競争力の強化と企業価値の増大を図る所存です。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、現状では期末配当に重点を置いております。

これらの剰余金配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

なお、当事業年度につきましては期末配当金として、年間1株当たり20円の配当を実施することを決定しました。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成31年3月28日定時株主総会	178,816	20

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
最高(円)	1,528	1,029	714	966	1,100
最低(円)	424	594	550	631	522

(注) 最高・最低株価は(株)東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	849	831	800	802	745	705
最低(円)	776	707	727	690	665	522

(注) 最高・最低株価は(株)東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		平沢 真也	昭和47年3月29日生	平成6年4月 当社入社 平成11年1月 当社設計部長 平成13年1月 当社設計本部長 平成15年3月 当社取締役 平成19年3月 当社取締役社長 平成20年3月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	86
代表取締役 副社長	第1設計本部長	渡辺 直樹	昭和36年4月9日生	昭和59年8月 当社入社 平成2年1月 当社設計第四部部长 平成12年9月 当社研究所部長 平成17年1月 当社研究所所長 平成18年6月 当社加須工場長 平成22年1月 当社設計本部長 平成24年3月 当社取締役 平成25年1月 当社設計本部長兼研究所所長 平成25年3月 当社代表取締役副社長 平成25年11月 当社設計本部長 平成30年1月 当社サービスセンター センター長 平成30年6月 当社第1設計本部長 平成30年9月 当社代表取締役副社長 兼第1設計本部長 兼海外事業担当(現任)	(注)3	10
取締役	管理本部長 兼総務部部长	川又 亨	昭和29年10月26日生	昭和52年3月 当社入社 昭和64年1月 当社設計部長 平成4年1月 当社企画室室長 平成7年3月 当社取締役 平成13年1月 当社第三営業本部長 平成15年1月 当社第二営業本部長 平成18年1月 当社営業本部長 平成19年3月 当社営業統括本部長 平成21年7月 当社営業統括本部長 兼東日本営業本部長 平成22年9月 当社バイオ営業担当 平成24年4月 当社バイオ営業本部長 平成25年1月 当社第一営業本部長 平成26年1月 当社企画室室長 平成27年11月 当社企画室室長兼海外事業担当 兼デザイン室室長兼電算室室長 平成29年3月 当社管理本部長兼企画室室長 兼総務部部长兼海外事業担当 兼電算室室長 平成29年11月 当社代表取締役副社長 平成30年9月 当社代表取締役副社長 兼管理本部長兼総務部部长 兼企画室室長兼デザイン室室長 兼電算室室長 平成31年1月 当社代表取締役副社長 兼管理本部長兼総務部部长 平成31年3月 当社取締役管理本部長兼総務部 長(現任)	(注)3	56

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業統括本部長	渡辺 洋和	昭和33年9月19日生	昭和59年4月 当社入社 平成11年1月 当社代理店営業部長 平成15年1月 当社営業統括本部長 平成18年1月 当社代理店営業部長 平成19年3月 当社取締役 東日本営業本部長 平成21年7月 当社営業一部部長 平成21年10月 当社東日本営業副本部長 兼営業一部部長 平成22年9月 当社電子営業担当 平成24年4月 当社電子営業本部長 平成25年1月 当社第二営業本部長 平成26年1月 当社サービスセンター センター長 平成27年11月 当社営業統括本部長 平成27年11月 当社取締役営業統括本部長 兼西日本営業本部長(現任)	(注)3	13
取締役	第2設計本部長	磯部 好秀	昭和32年11月23日生	昭和57年4月 当社入社 平成3年1月 当社設計部長 平成12年10月 当社設計本部副本部長 平成13年1月 当社企画室室長 平成15年1月 当社研究所所長 平成17年1月 当社設計第二部部长 平成19年1月 当社設計本部長 平成22年1月 当社加須工場長 平成22年9月 当社生産統括本部長 兼草加工場長 平成27年3月 当社取締役 平成30年6月 当社取締役第2設計本部長 (現任)	(注)3	21
取締役	生産統括本部長	関根 賢二	昭和35年1月8日生	昭和58年4月 当社入社 平成10年1月 当社群馬工場長 平成11年1月 当社群馬副工場長 平成13年1月 当社群馬工場長 平成27年11月 当社生産統括副本部長 兼群馬工場長 平成29年3月 当社取締役 平成30年6月 当社生産統括本部長 兼群馬工場長 平成31年1月 当社取締役生産統括本部長 (現任)	(注)3	8
取締役		森嶋 正道	昭和18年11月12日生	昭和41年4月 日立電線(株)入社 平成9年6月 同社取締役 平成13年6月 東日京三電線(株)代表取締役社長 日立電線販売(株)取締役副社長 平成14年7月 住電日立ケーブル(株) 代表取締役社長 平成25年3月 当社社外監査役 平成27年3月 当社社外取締役(現任)	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		大重 一義	昭和29年8月9日生	昭和53年4月 当社入社 平成2年1月 当社設計部長 平成11年1月 当社群馬工場長 平成13年1月 当社研究所所長 平成13年3月 当社取締役 平成15年2月 当社取締役社長 平成19年3月 当社研究所兼設計本部統括 平成21年3月 当社管理本部長兼企画室室長 平成23年5月 当社管理本部長兼企画室室長 兼総務部長 平成24年1月 当社管理本部長兼企画室室長 平成26年1月 当社管理本部長 平成27年4月 当社管理本部長兼総務部長 平成29年3月 当社監査役(現任)	(注)3	59
監査役		平輪 政道	昭和19年3月30日生	昭和42年4月 日産自動車(株)入社 平成2年1月 同社ロンドンサービス駐在員 事務所長 平成8年3月 同社ソウル駐在員事務所 (三星自動車設立指導) 平成10年7月 公益法人日本自動車輸入組 合 環境・技術部長 平成19年7月 テュフラインランドジャパン (株) 輸入車ディーラー監査員 (現任) 平成23年3月 当社社外監査役(現任)	(注)3	2
監査役		山崎 淳司	昭和33年3月18日生	昭和62年4月 早稲田大学理工学部資源工学 科 助手 平成3年4月 同学 同学部 同学科 選任講師 平成5年4月 同学 同学部 同学科 助教授 平成10年4月 早稲田大学理工学術院創造理工 学部環境資源工学科 教授(現任) 平成27年3月 当社社外監査役(現任)	(注)3	-
計						266

(注)1. 取締役森嶋正道氏は、社外取締役であります。

2. 監査役平輪政道、山崎淳司の2氏は、社外監査役であります。

3. : 平成28年3月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

: 平成31年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

: 平成29年3月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、健全性及び慎重かつ迅速な意思決定による素早い対応を基本としており、コーポレート・ガバナンス強化のために、取締役会、役員会等の経営機構の充実及びコンプライアンスの強化に努めております。また、株主をはじめ社外に対する迅速で正確な情報の発信による、経営の透明性の向上に努めております。

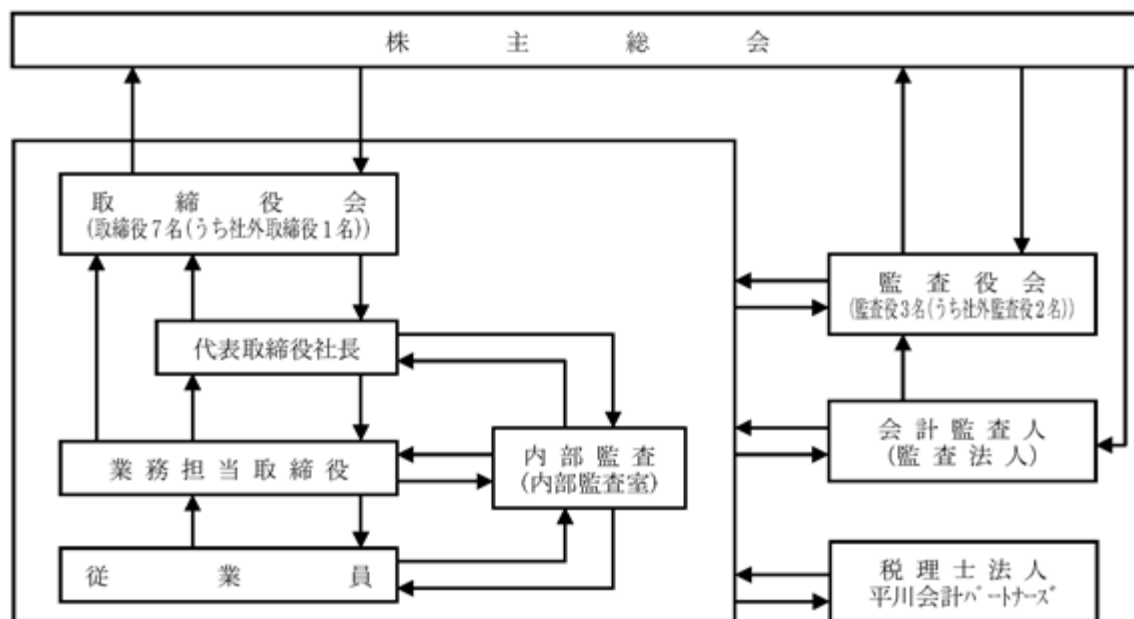
企業統治の体制

a. 企業統治の体制の概要

当社は監査役制度を採用しており、監査役会は社外監査役2名を含み監査役合計3名で構成され、毎月1回定期的に監査役会を開催しております。なお、当社と当社の社外監査役の人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係において、特筆すべき関係等はありません。また、社外監査役2名は株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定され、届け出されております。

b. 当社における会社の機関・内部統制等の関係

(は報告、指示、監査、選任等を意味する)



c. 企業統治の体制を採用する理由

企業統治の体制は、当社の事業規模と形態を踏まえ、健全性及び慎重かつ迅速な意思決定を目指すなかで、株主をはじめとするステークホルダーへの説明責任を意識して、整備、運用するものと考えております。従ってこのような考え方に基づき、当社は監査役制度を採用しております。

d. 内部統制システムの整備の状況

当社は業務の適正さの確保に必要な体制を整備し、また、継続して改善を図るよう努めております。このような体制整備の基本方針の概要は次のとおりであります。

(イ) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

法令、会社の社会的責任、企業倫理等を踏まえた会社全体を考慮した職務の執行が求められる。

取締役及び使用人の職務の執行についての監督、監査は相互の監視・監督、監査役の監査の範疇で行われて来た所ではあるが、さらに善管注意義務等促進に向けては、いわゆる内部統制システムを構築し、システムを通じて業務の適正を確保することとする。

コンプライアンス体制の基礎として、企業行動基準及びコンプライアンス基準を定める。それらを取締役及び使用人が法令・定款及び会社規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。

内部統制システム構築の徹底を図るため、統括部署を設置し、コンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、同部署を中心に使用人教育等を行う。

内部監査部門は、統括部署と連携の上、コンプライアンスの状況を監査する。これらの活動は定期的にとり締役会及び監査役会に報告されるものとする。

法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段として社内通報制度を整備する。

(ロ) 企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社グループは当社及び関連会社1社で構成されているが、その管理は各々の事業に関して責任を負う取締役を任命し、関連会社管理規程により推進し管理する。

(ハ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文章管理規程に従い、取締役の職務の執行に係る情報を文章または電磁的媒体(以下、文章等という)に記録し、保存する。

取締役及び監査役は、文章管理規程により、常時これらの文章等を閲覧できる。

情報システム運用管理規程に従い、情報システムを安全に管理・維持する。

(ニ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社の業務執行に係るリスクとして、以下の項目等をリスクと認識し、その把握と管理、個々のリスクについての管理責任者についての体制を整えることとする。

- ・ 災害
- ・ 品質
- ・ 環境
- ・ コンプライアンス
- ・ 情報セキュリティ
- ・ 輸出管理

リスク管理体制の基礎として、リスク管理規程を定め、個々のリスクについての管理責任者を決定し、同規程に従ったリスク管理体制を構築する。不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を組織し迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整える。

(ホ) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を毎月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、当社の経営方針及び経営戦略に係る重要項目については、事前に、会長・社長を含む役員会議において議論を行い、その審議を経て執行決定を行うものとする。

取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、業務分掌規程において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続きの詳細について定めることとする。

(ヘ) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制の基礎として、企業行動基準及びコンプライアンス基準を定める。それらを役職員が法令・定款及び会社規範を遵守した行動をとるための行動規範とする。またその徹底を図るため、統括部署を設置し、コンプライアンスの取り組みを横断的に統括することとし、同部署を中心に役職員教育等を行う。

内部監査部門は、統括部署と連携の上、コンプライアンスの状況を監査する。

これら活動は定期的に取り締り役会及び監査役会に報告されるものとする。法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段として社内通報システムを整備する。

(ト) 企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社グループは当社及び関連会社1社で構成されているが、その管理は各々の事業に関して責任を負う取締役を任命し、関連会社管理規程により推進し管理する。

(チ) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項並びに当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役は内部監査室所属の職員に監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた職員はその命令に関して、取締役及び内部監査室等の指揮命令を受けず、全面的に監査役の指揮命令に従わなければならない。

(リ) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

取締役または使用人は、監査役会に対して、決定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンスに係る社内通報システムによる通報状況及びその内容を速やかに報告する体制を整備する。

社内通報制度は、常勤監査役及び総務部の責任者に対して直接通報できるように運用する。

社内通報制度は匿名での通報を認めること及び通報をした者が通報を理由に不利益な取扱いを受けることがないことを内容に含むものとする。

報告の方法(報告者、報告受領者、報告時期等)については、取締役と監査役会との協議により決定する方法による。その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制として監査役会と会長、社長との間の定期的な意見交換会を設定する。

e. リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、「リスク管理規程」を基本としております。

一方では役員・従業員の行動指針として「企業行動基準」及び「コンプライアンス基準」を設け、さらに「社内通報制度」を制定し、企業のリスク発生時に的確かつ迅速に対処することを可能にし、違法行為や不法行為等発生を未然防止を図っております。

f. 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び各社外監査役とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が定める額としております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は毎月1回定期的に取締役会を開催し、重要事項の審議・決定を行い、業務の執行を監督しております。取締役会には社外監査役を含む3名の監査役も出席し、必要に応じて意見を述べ、公正・客観的な立場から厳正に取締役の職務執行を監査しております。また、必要に応じて取締役及び監査役を構成員とした臨時の役員会または打合せ会を開催し、重要議案について随時事前協議を重ね、法令遵守（コンプライアンス）並びに迅速な意思決定を行い、効率的で迅速な業務執行を図っております。なお、委員会等設置会社への移行につきましては、現在のところその計画はありません。

内部監査室の専任者は1名ですが、必要に応じて管理本部数名を動員し、全部署・事業所の内部監査及び調査を計画的に実施し、改善事項の指摘・指導を行っており、その内容は社長に報告されております。また、監査役は必要に応じてこの内部監査に同行し、内部監査状況を監視できる実効性の高い体制としております。

会計監査人として有限責任監査法人トーマツと監査契約を結んでおり、その会計監査を受けている他、必要に応じて会計監査人と監査役会は意見交換を行っております。また、税務については税理士法人平川会計パートナーズと顧問契約を結び指導を受ける等、外部の専門家の目を通して経営の透明性及び法令遵守に努めております。

株式公開企業として、株主・一般投資家への積極的な必要かつ十分な説明責任（アカウンタビリティ）が生ずることは当然ですが、広く一般社会に対する説明責任も重要であるとの認識から、管理本部IR担当では、広報窓口一元管理による情報の公平性を保つとともに、公開企業として要求される広報の水準向上に努めております。

会計監査の状況

当社は有限責任監査法人トーマツに会計監査を依頼しており、同監査法人は下記の公認会計士及び補助者6人で監査業務を実施しております。また、同監査法人に対しては「会社法」に基づく監査も依頼しております。

所属監査法人	氏名	継続監査年数
有限責任監査法人トーマツ	指定有限責任社員 業務執行社員 石井 宏明	1年
有限責任監査法人トーマツ	指定有限責任社員 業務執行社員 森竹 美江	3年

社外取締役及び社外監査役

社外役員を選任するにあたり、独立性に関する基準または方針は特に設けておりませんが、選任にあたっては、会社法に定める社外性の要件を満たすというだけでなく、株式会社東京証券取引所の独立役員基準等を参考にしております。

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役森嶋正道氏、社外監査役平輪政道氏は、当社の株主であり、当社株式の売買に関しては当社取締役と同様に、当社へ事前申請し、承認を取得することで合意しております。

当社の社外取締役は当社との間に特別な利害関係はありません。

社外取締役森嶋正道氏は、会社経営者を歴任し、その経験と幅広い見識をもって、当社発展のための助言及び提言を行って頂けるものと判断し選任しております。

当社の社外監査役は、いずれも当社との間に特別な利害関係はありません。

社外監査役平輪政道氏は、会社経営に関与された経験はありませんが、国内業務はもとより、管理者として海外ビジネスにおける豊富な経験と幅広い見識を有し、それらを活かして適切な監査を行って頂けると判断し選任しております。

社外監査役山崎淳司氏は、会社の経営に直接関与した経験は有しておりませんが、大学教授として長い経験と幅広く、かつ専門的な知識を有し、それらを活かして適切な監査を行って頂けると判断し選任しております。

なお、上記の社外取締役1名、社外監査役2名は、いずれも株式会社東京証券取引所の独立役員に関する独立性を満たしているため、独立役員に指定し、同所へその旨、届け出ております。

当社は、経営の意思決定及び取締役による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、取締役7名中社外取締役1名及び監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役1名または社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職 功労金	
取締役 (社外取締役を除く)	109,858	95,156	4,201	10,500	-	7
監査役 (社外監査役を除く)	13,024	12,219	55	750	-	1
社外役員	4,961	4,206	55	700	-	4

(注) 1. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はおりませんので記載を省略しております。

2. 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なものはございません。
3. 社外監査役佐藤田鶴子氏は、平成31年1月31日辞任いたしました。
4. 取締役の報酬限度額は、平成15年3月28日開催の第30回定時株主総会において年額150百万円以内、また、平成28年3月29日開催の第43回定時株主総会において、ストック・オプション報酬額として年額200百万円以内(うち社外取締役分200百万円)、平成29年3月29日開催の第44回定時株主総会においてストック・オプション報酬額として年額300百万円以内、平成30年3月28日開催の第45回定時株主総会においてストック・オプション報酬額として年額300百万円以内と決議頂いております。なお、取締役個々の報酬につきましては、取締役会において決議しております。
5. 監査役の報酬限度額は、平成3年3月28日開催の第18回定時株主総会において年額200百万円以内と決議頂いております。なお、監査役個々の報酬につきましては、監査役会の協議によって定めております。
6. 上記の報酬等の額には、当事業年度に係る役員賞与として未払金に計上した金額1,195万円(取締役8名に対し1,075万円(うち社外取締役1名に対して25万円)、監査役4名に対し120万円(うち社外監査役3名に対して45万円))が含まれております。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものと定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項

a. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

b. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役(取締役であったものを含む)及び監査役(監査役であったものを含む)の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失が無い場合は取締役会の決議によって、法令に定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨定款に定めております。なお、社外取締役及び社外監査役に対しては法令が定める額を限度として責任を負担する契約を締結することができる旨を定めております。

これらは、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備する事を目的とするものであります。

c. 当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

a. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	貸借対照表計上額合計額（千円）
12銘柄	110,800

b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額（千円）	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	20,600	17,023	円滑な取引関係を維持するため保有
高砂熱学工業(株)	8,000	16,520	同上
(株)鳥羽洋行	4,474	14,384	同上
ダイトロン(株)	5,000	11,675	同上

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額（千円）	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	20,600	11,080	円滑な取引関係を維持するため保有
高砂熱学工業(株)	8,000	14,312	同上
(株)鳥羽洋行	4,734	11,538	同上
ダイトロン(株)	5,000	6,135	同上

c. 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
18	-	19	-

(注) 監査証明業務に基づく報酬については、上記以外に前事業年度に係る追加報酬の額が1百万円あります。

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成30年1月1日から平成30年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また、会計基準の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し情報の収集に努めております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,671,716	5,236,741
受取手形	2 1,153,025	2 979,418
売掛金	3,254,967	2,976,616
電子記録債権	715,032	802,244
有価証券	479	476
商品及び製品	339,837	531,301
仕掛品	398,560	734,903
原材料及び貯蔵品	243,528	293,701
前払費用	9,646	13,193
繰延税金資産	85,997	72,949
その他	35,662	2,161
貸倒引当金	2,097	700
流動資産合計	11,906,356	11,643,007
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 2,022,773	1 2,022,773
減価償却累計額	1,265,492	1,304,938
建物(純額)	757,280	717,834
構築物	72,219	72,219
減価償却累計額	56,697	58,659
構築物(純額)	15,521	13,560
機械及び装置	328,802	344,989
減価償却累計額	204,199	196,863
機械及び装置(純額)	124,602	148,125
車両運搬具	10,705	10,705
減価償却累計額	8,522	9,392
車両運搬具(純額)	2,183	1,313
工具、器具及び備品	313,149	318,813
減価償却累計額	283,787	290,627
工具、器具及び備品(純額)	29,361	28,185
土地	1 1,826,917	1 1,831,317
有形固定資産合計	2,755,867	2,740,337
無形固定資産		
ソフトウェア	33,920	35,042
リース資産	27,754	18,601
電話加入権	3,471	3,471
無形固定資産合計	65,147	57,116

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	119,211	110,800
関係会社出資金	20,992	20,992
破産更生債権等	2,589	3,505
繰延税金資産	222,246	231,350
その他	14,946	18,264
貸倒引当金	2,589	3,505
投資その他の資産合計	377,396	381,408
固定資産合計	3,198,411	3,178,862
資産合計	15,104,767	14,821,869
負債の部		
流動負債		
支払手形	2 2,459,593	2 839,905
電子記録債務	-	1,503,754
買掛金	341,889	395,145
短期借入金	1 350,000	1 300,000
1年内返済予定の長期借入金	1 41,412	1 41,412
1年内償還予定の社債	100,000	-
リース債務	11,085	11,085
未払金	623,382	427,971
未払費用	196,540	196,562
未払法人税等	218,455	51,900
前受金	2,120	14,357
預り金	92,667	82,219
賞与引当金	83,621	85,476
受注損失引当金	13,454	891
製品保証引当金	16,257	29,675
その他	47,815	615
流動負債合計	4,598,293	3,980,972
固定負債		
社債	-	100,000
長期借入金	1 136,609	1 95,197
リース債務	24,102	13,016
退職給付引当金	749,363	762,801
資産除去債務	11,216	11,408
その他	1,700	1,085
固定負債合計	922,991	983,509
負債合計	5,521,285	4,964,481

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,501,723	1,517,053
資本剰余金		
資本準備金	1,509,143	1,524,463
資本剰余金合計	1,509,143	1,524,463
利益剰余金		
利益準備金	132,600	132,600
その他利益剰余金		
別途積立金	303,000	303,000
繰越利益剰余金	6,180,746	6,412,869
利益剰余金合計	6,616,346	6,848,469
自己株式	101,754	101,790
株主資本合計	9,525,458	9,788,194
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	26,296	11,836
評価・換算差額等合計	26,296	11,836
新株予約権	31,727	57,356
純資産合計	9,583,482	9,857,387
負債純資産合計	15,104,767	14,821,869

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上高		
製品売上高	9,985,220	9,900,164
商品売上高	180,976	290,799
売上高合計	10,166,196	10,190,964
売上原価		
製品期首たな卸高	388,909	325,919
商品期首たな卸高	9,124	13,918
当期製品製造原価	7,636,044	7,981,210
当期商品仕入高	143,172	221,117
合計	8,177,250	8,542,165
製品期末たな卸高	325,919	519,950
商品期末たな卸高	13,918	11,351
売上原価合計	7,837,413	8,010,863
受注損失引当金戻入益	135	13,454
受注損失引当金繰入額	13,454	891
売上総利益	2,315,464	2,192,663
販売費及び一般管理費		
荷造運賃	292,016	348,276
旅費及び交通費	78,669	82,779
役員報酬	128,224	123,532
給料及び手当	474,796	498,976
賞与	144,744	124,789
賞与引当金繰入額	24,479	20,835
退職給付費用	27,973	33,600
製品保証引当金繰入額	16,257	13,418
貸倒引当金繰入額	10	583
法定福利費	106,212	105,971
減価償却費	10,414	12,730
賃借料	32,339	31,425
研究開発費	2 103,267	2 142,457
その他	263,186	225,794
販売費及び一般管理費合計	1,702,593	1,765,173
営業利益	612,871	427,489
営業外収益		
受取利息	611	1,059
受取配当金	1 117,275	1 145,010
投資有価証券売却益	4,587	-
その他	17,755	19,805
営業外収益合計	140,230	165,875

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
営業外費用		
支払利息	3,368	2,272
社債利息	535	333
為替差損	1,481	2,194
社債発行費	-	2,509
その他	207	0
営業外費用合計	5,592	7,310
経常利益	747,508	586,055
税引前当期純利益	747,508	586,055
法人税、住民税及び事業税	265,326	166,463
法人税等調整額	35,042	9,351
法人税等合計	230,283	175,815
当期純利益	517,224	410,240

[製造原価明細書]

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		3,554,928	46.0	4,095,998	49.2
労務費		1,805,307	23.3	1,870,136	22.5
経費		2,371,123	30.7	2,351,418	28.3
(うち外注加工費)		(2,050,218)	(26.5)	(1,966,557)	(23.6)
当期総製造費用		7,731,359	100.0	8,317,553	100.0
期首仕掛品たな卸高		303,245		398,560	
合計		8,034,605		8,716,114	
期末仕掛品たな卸高		398,560		734,903	
当期製品製造原価		7,636,044		7,981,210	

(注) 原価計算の方法は個別原価計算によっております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						利益剰余金合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	その他利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,501,723	1,509,143	1,509,143	132,600	303,000	5,797,111	6,232,711
当期変動額							
剰余金の配当						133,588	133,588
当期純利益						517,224	517,224
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	383,635	383,635
当期末残高	1,501,723	1,509,143	1,509,143	132,600	303,000	6,180,746	6,616,346

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	101,707	9,141,869	11,019	11,019	7,842	9,160,732
当期変動額						
剰余金の配当		133,588				133,588
当期純利益		517,224				517,224
自己株式の取得	46	46				46
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			15,276	15,276	23,884	39,161
当期変動額合計	46	383,589	15,276	15,276	23,884	422,750
当期末残高	101,754	9,525,458	26,296	26,296	31,727	9,583,482

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,501,723	1,509,143	1,509,143	132,600	303,000	6,180,746	6,616,346
当期変動額							
新株の発行（新株予約権の行使）	15,330	15,320	15,320				
剰余金の配当						178,117	178,117
当期純利益						410,240	410,240
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	15,330	15,320	15,320	-	-	232,122	232,122
当期末残高	1,517,053	1,524,463	1,524,463	132,600	303,000	6,412,869	6,848,469

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	101,754	9,525,458	26,296	26,296	31,727	9,583,482
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）		30,650				30,650
剰余金の配当		178,117				178,117
当期純利益		410,240				410,240
自己株式の取得	36	36				36
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			14,460	14,460	25,629	11,168
当期変動額合計	36	262,735	14,460	14,460	25,629	273,904
当期末残高	101,790	9,788,194	11,836	11,836	57,356	9,857,387

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	747,508	586,055
減価償却費	79,636	97,412
貸倒引当金の増減額(は減少)	5,012	481
賞与引当金の増減額(は減少)	7,828	1,855
退職給付引当金の増減額(は減少)	12,074	13,438
受注損失引当金の増減額(は減少)	13,318	12,562
受取利息及び受取配当金	117,884	146,070
支払利息及び社債利息	3,368	2,606
為替差損益(は益)	1,465	2,104
売上債権の増減額(は増加)	1,233,289	364,746
たな卸資産の増減額(は増加)	53,140	577,980
仕入債務の増減額(は減少)	459,314	62,676
未払金の増減額(は減少)	141,035	187,621
未払費用の増減額(は減少)	23,453	12,548
その他	44,295	22,749
小計	123,973	91,027
利息及び配当金の受取額	117,889	146,070
利息の支払額	3,378	2,749
法人税等の支払額	164,324	318,293
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,159	83,944
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	667,485	671,143
定期預金の払戻による収入	667,430	667,489
投資有価証券の取得による支出	-	10,624
有形固定資産の取得による支出	328,173	58,690
投資有価証券の売却及び償還による収入	12,000	-
その他	6,375	27,284
投資活動によるキャッシュ・フロー	322,603	100,252
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	510,000	400,000
短期借入金の返済による支出	510,000	450,000
長期借入金の返済による支出	41,412	41,412
社債の発行による収入	-	97,490
社債の償還による支出	100,000	100,000
配当金の支払額	133,424	177,935
株式の発行による収入	-	30,650
その他	8,096	11,122
財務活動によるキャッシュ・フロー	282,933	252,329
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,494	2,104
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	533,871	438,631
現金及び現金同等物の期首残高	5,584,084	5,050,212
現金及び現金同等物の期末残高	5,050,212	4,611,581

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

(1) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(2) 時価のないもの

移動平均法による原価法

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品及び原材料

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 製品及び仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備並びに構築物については、定額法を採用しております。

主な耐用年数

建物 15～38年

構築物 7～30年

機械及び装置 12～13年

工具、器具及び備品 2～5年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別の回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

(4) 製品保証引当金

製品の無償補修費用の支出に備えるため、無償補修費用を過去の実績に基づいて今後必要と見込まれる額を計上しているほか、個別に見積り算出した額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による按分額を定額法により翌事業年度より費用処理することとしております。

6. 収益及び費用の計上基準

工事売上高及び工事売上原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他の工事

工事完成基準

7. 繰延資産の処理方法

社債発行費・・・支出時に全額費用として処理しております。

8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資であります。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

- ・ 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・ 「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時にまたは充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

適用予定時期については現在検討中であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
建物	429,843千円	398,476千円
土地	1,362,733	1,362,733
計	1,792,577	1,761,209

上記に対応する債務

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
短期借入金	180,000千円	180,000千円
1年内返済予定の長期借入金	35,700	35,700
長期借入金	108,985	73,285
計	324,685	288,985

2. 事業年度末日満期手形

事業年度末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度末日が金融機関の休業日であったため、次の事業年度末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
受取手形	93,453千円	85,598千円
支払手形	494	-

(損益計算書関係)

1. 関係会社に係るものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
受取配当金	64,295千円	78,818千円

2. 一般管理費に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
	103,267千円	142,457千円

なお、当期の製造費用に含まれている研究開発費はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,060,500	-	-	9,060,500
合計	9,060,500	-	-	9,060,500
自己株式				
普通株式(注)	154,569	49	-	154,618
合計	154,569	49	-	154,618

(注) 自己株式の普通株式の増加49株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
			当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権 平成28年3月29日及び平成29年3月29日定時株主総会決議分	-	-	-	-	-	31,727
合計		-	-	-	-	-	31,727

(注) スtock・オプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月29日 定時株主総会	普通株式	133,588	15	平成28年12月31日	平成29年3月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	178,117	利益剰余金	20	平成29年12月31日	平成30年3月29日

(注) 1株当たり配当額には創立45周年記念配当4円を含みます。

当事業年度（自平成30年1月1日 至平成30年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）1.	9,060,500	35,000	-	9,095,500
合計	9,060,500	35,000	-	9,095,500
自己株式				
普通株式（注）2.	154,618	37	-	154,655
合計	154,618	37	-	154,655

（注） 1. 発行済株式の普通株式の増加35,000株は、新株予約権の行使による新株発行によるものであります。
2. 自己株式の普通株式の増加37株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当事業年度末残高（千円）
			当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権 平成28年3月29日及び平成29年3月29日及び平成30年3月28日定時株主総会決議分	-	-	-	-	-	57,356
合計		-	-	-	-	-	57,356

（注） 平成29年3月29日及び平成30年3月28日定時株主総会決議分のストック・オプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	178,117	20	平成29年12月31日	平成30年3月29日

（注） 1株当たり配当額には創立45周年記念配当4円を含みます。

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成31年3月28日 定時株主総会	普通株式	178,816	利益剰余金	20	平成30年12月31日	平成31年3月29日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
現金及び預金勘定	5,671,716千円	5,236,741千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	621,982	625,636
有価証券勘定	479	476
現金及び現金同等物	5,050,212	4,611,581

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

事業における生産設備(機械及び装置)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的で低リスクの金融商品に限定し、また、資金調達については、金融機関からの借入または社債等の資金市場からの調達による方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、新規取引発生時に顧客の信用状況について社内での審議・承認のプロセスを踏むことを徹底しております。また、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、定期的に主な取引先の信用状況を確認しております。

有価証券は、マネー・マネジメント・ファンド等の公社債投資信託等、安全性と流動性の高い金融商品であります。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に市況や取引先企業との関係を勘案して保有の妥当性を検討しております。

営業債務である支払手形、買掛金、電子記録債務、未払金及び預り金は、1年以内の支払期日であります。

借入金、社債及びリース債務は、主に営業取引に係る資金調達であります。

営業債務、借入金、未払金、社債及びリース債務は流動性リスクに晒されておりますが、月次で資金繰り計画を作成する等の方法により、リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

前事業年度（平成29年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	5,671,716	5,671,716	-
(2) 受取手形	1,153,025	1,153,025	-
(3) 売掛金	3,254,967	3,254,967	-
(4) 電子記録債権	715,032	715,032	-
(5) 有価証券及び投資有価証券	60,082	60,082	-
(6) 破産更生債権等	2,589		
貸倒引当金	2,589		
破産更生債権等(純額)	-	-	-
資産計	10,854,823	10,854,823	-
(1) 支払手形	2,459,593	2,459,593	-
(2) 買掛金	341,889	341,889	-
(3) 短期借入金(1)	350,000	350,000	-
(4) 未払金	623,382	623,382	-
(5) 未払法人税等	218,455	218,455	-
(6) 預り金	92,667	92,667	-
(7) 社債(2)	100,000	100,259	259
(8) 長期借入金(3)	178,021	178,379	358
(9) リース債務(4)	35,187	34,921	267
負債計	4,399,196	4,399,546	350

(1) 1年内返済予定の長期借入金を含めておりません。

(2) 1年内償還予定の社債を含めております。

(3) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(4) 1年内返済予定のリース債務を含めております。

当事業年度（平成30年12月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	5,236,741	5,236,741	-
(2) 受取手形	979,418	979,418	-
(3) 売掛金	2,976,616	2,976,616	-
(4) 電子記録債権	802,244	802,244	-
(5) 有価証券及び投資有価証券	43,543	43,543	-
(6) 破産更生債権等	3,505		
貸倒引当金	3,505		
破産更生債権等(純額)	-	-	-
資産計	10,038,563	10,038,563	-
(1) 支払手形	839,905	839,905	-
(2) 電子記録債務	1,503,754	1,503,754	-
(3) 買掛金	395,145	395,145	-
(4) 短期借入金(1)	300,000	300,000	-
(5) 未払金	427,971	427,971	-
(6) 未払法人税等	51,900	51,900	-
(7) 預り金	82,219	82,219	-
(8) 社債	100,000	103,061	3,061
(9) 長期借入金(2)	136,609	136,286	323
(10) リース債務(3)	24,101	23,906	195
負債計	3,861,607	3,864,150	2,543

- (1) 1年内返済予定の長期借入金を含めておりません。
(2) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。
(3) 1年内返済予定のリース債務を含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金、(4) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

マネー・マネジメント・ファンド等は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、株式は取引所の価格によっております。

なお、有価証券及び投資有価証券はその他有価証券に区分しております。

(6) 破産更生債権等

破産更生債権については、回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似していることから、当該価格によっております。

負債

- (1) 支払手形、(2) 電子記録債務、(3) 買掛金、(4) 短期借入金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等、
(7) 預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (8) 社債、(9) 長期借入金、(10) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
投資有価証券(非上場株式)	59,608	67,734
関係会社出資金	20,992	20,992

非上場株式については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(5)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

また、関係会社出資金については市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、上表に含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成29年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	5,670,868	-	-	-
受取手形	1,153,025	-	-	-
売掛金	3,254,967	-	-	-
電子記録債権	715,032	-	-	-
合計	10,793,893	-	-	-

破産更生債権等は、償還予定額が見込めないため記載しておりません。

当事業年度(平成30年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	5,235,862	-	-	-
受取手形	979,418	-	-	-
売掛金	2,976,616	-	-	-
電子記録債権	802,244	-	-	-
合計	9,994,141	-	-	-

破産更生債権等は、償還予定額が見込めないため記載しておりません。

(注) 4 . 社債、長期借入金及びリース債務の決算日後の返済予定額

前事業年度 (平成29年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
社債	100,000	-	-	-
長期借入金	41,412	121,083	15,526	-
リース債務	11,085	23,213	888	-
合計	152,497	144,296	16,414	-

当事業年度 (平成30年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
社債	-	100,000	-	-
長期借入金	41,412	95,197	-	-
リース債務	11,085	12,554	461	-
合計	52,497	207,751	461	-

(有価証券関係)

前事業年度(平成29年12月31日現在)

1.関係会社出資金

関係会社出資金(貸借対照表計上額 20,992千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2.その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	59,603	22,899	36,703
	(2) その他	-	-	-
	小計	59,603	22,899	36,703
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) その他	479	490	10
	小計	479	490	10
合計		60,082	23,389	36,692

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 59,608千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成30年12月31日現在)

1.関係会社出資金

関係会社出資金(貸借対照表計上額 20,992千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2.その他有価証券

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	43,066	23,732	19,333
	(2) その他	-	-	-
	小計	43,066	23,732	19,333
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) その他	476	496	19
	小計	476	496	19
合計		43,543	24,228	19,313

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 67,734千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度の他、積立型の確定給付制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(積立型制度であります)では、給与と勤務期間に基づいた一時金または年金を支給しております。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
退職給付債務の期首残高	1,314,625千円	1,372,444千円
勤務費用	79,852	80,866
利息費用	4,785	5,210
数理計算上の差異の発生額	86,325	209,552
退職給付の支払額	113,143	84,669
退職給付債務の期末残高	1,372,444	1,583,403

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
年金資産の期首残高	648,858千円	664,509千円
期待運用収益	16,221	16,613
数理計算上の差異の発生額	54,083	75,440
事業主からの拠出額	52,852	54,384
退職給付の支払額	107,506	79,964
年金資産の期末残高	664,509	580,102

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,221,640千円	1,460,059千円
年金資産	664,509	580,102
	557,131	879,957
非積立型制度の退職給付債務	150,804	123,344
未積立退職給付債務	707,935	1,003,301
未認識数理計算上の差異	41,428	240,499
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	749,363	762,801
退職給付引当金	749,363	762,801
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	749,363	762,801

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
勤務費用	79,852千円	80,866千円
利息費用	4,785	5,210
期待運用収益	16,221	16,613
数理計算上の差異の費用処理額	2,148	3,064
割増退職金	13,588	22,943
確定給付制度に係る退職給付費用	84,153	95,471

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
債券	38.3%	42.7%
株式	59.2	53.2
その他	2.5	4.1
合計	100.0	100.0

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
割引率	0.247 ~ 0.396%	0.230 ~ 0.346%
長期期待運用収益率	2.5	2.5

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上原価の株式報酬費用	14,126	15,367
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	9,758	17,706

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション	平成30年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 7名 当社従業員 87名	当社取締役 7名 当社従業員 113名	当社取締役 7名 当社従業員 111名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)	普通株式 106,000株	普通株式 130,000株	普通株式 129,000株
付与日	平成28年5月2日	平成29年5月2日	平成30年5月2日
権利確定条件	権利行使時においても、当社の取締役・監査役及び従業員の地位にあることを要する。	権利行使時においても、当社の取締役・監査役及び従業員の地位にあることを要する。	権利行使時においても、当社の取締役・監査役及び従業員の地位にあることを要する。
対象勤務期間	自平成28年5月2日 至平成30年3月29日	自平成29年5月2日 至平成31年3月29日	自平成30年5月2日 至平成32年3月29日
権利行使期間	自平成30年4月16日 至平成34年3月29日	自平成31年4月15日 至平成35年3月29日	自平成32年4月14日 至平成36年3月29日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度(平成30年12月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション	平成30年 ストック・オプション
権利確定前 (株)			
前事業年度末	106,000	130,000	-
付与	-	-	129,000
失効	-	-	-
権利確定	106,000	-	-
未確定残	-	130,000	129,000
権利確定後 (株)			
前事業年度末	-	-	-
権利確定	106,000	-	-
権利行使	35,000	-	-
失効	-	-	-
未行使残	71,000	-	-

単価情報

	平成28年 ストック・オプション	平成29年 ストック・オプション	平成30年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	663	820	901
行使時平均株価 (円)	849	-	-
付与日における公正な 評価単価 (円)	212.72	268.05	266.38

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

当事業年度において付与された平成30年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法 ブラック・ショールズ式
主な基礎数値及び見積方法

	平成30年ストック・オプション
株価変動性(注) 1	47.23 %
予想残存期間(注) 2	3.93 年
予想配当(注) 3	15.5 円/株
無リスク利率(注) 4	0.12 %

(注) 1 . 3.93年間(平成26年5月26日から平成30年5月2日まで)の株価実績に基づき算定しております。

2 . 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3 . 直近2期の配当実績の単純平均値によっております。

4 . 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	16,005千円	7,504千円
賞与引当金	25,608	26,173
退職給付引当金	229,596	233,671
棚卸資産評価損	9,556	22,444
投資有価証券評価損	6,215	6,214
貸倒引当金	1,435	1,288
減価償却費	1,764	1,469
受注損失引当金	4,121	272
製品保証引当金	4,977	8,818
資産除去債務	2,965	3,024
その他	29,464	11,787
繰延税金資産小計	331,709	322,665
評価性引当額	13,764	14,102
繰延税金資産合計	317,945	308,563
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	986	957
その他有価証券評価差額金	8,714	3,306
繰延税金負債合計	9,700	4,263
繰延税金資産の純額	308,244	304,300

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異がある時の、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(持分法損益等)

関連会社に対する投資に関する事項

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
関連会社に対する投資の金額	20,992千円	20,992千円
持分法を適用した場合の投資の金額	144,054	148,799
持分法を適用した場合の投資利益の金額	93,345	109,115

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

前事業年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)及び

当事業年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

当社はクリーンエアシステム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高の10%を超える特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高の10%を超える特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

関連当事者との取引

役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	エアテックサプライ(株)	神奈川県川崎市宮前区	10	機械器具販売業	(所有)直接10%	当社製品の販売等	営業取引	製品の販売	32,819	売掛金	5,486

- (注) 1. 当社取締役磯部好秀の近親者が議決権の90%を所有しております。
2. 上記取引金額には消費税等は含まれておりませんが、債権債務の残高には消費税等が含まれております。
3. 取引条件及び取引条件の決定方針等
売上高、仕入高については、一般的な市場価格・決済条件に基づき決定しております。

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

関連当事者との取引

役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	エアテックサプライ(株)	神奈川県川崎市宮前区	10	機械器具販売業	(所有)直接10%	当社製品の販売等	営業取引	製品の販売	21,442	売掛金	10,763

- (注) 1. 当社取締役磯部好秀の近親者が議決権の90%を所有しております。
2. 上記取引金額には消費税等は含まれておりませんが、債権債務の残高には消費税等が含まれております。
3. 取引条件及び取引条件の決定方針等
売上高、仕入高については、一般的な市場価格・決済条件に基づき決定しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
1株当たり純資産額	1,072.52円	1株当たり純資産額	1,096.10円
1株当たり当期純利益	58.08円	1株当たり当期純利益	45.97円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	57.98円	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	45.88円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
純資産の部の合計額(千円)	9,583,482	9,857,387
純資産の合計額から控除する金額(千円)	31,727	57,356
(うち新株予約権)(千円)	(31,727)	(57,356)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	9,551,755	9,800,030
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	8,905,882	8,940,845

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	517,224	410,240
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	517,224	410,240
普通株式の期中平均株式数(株)	8,905,928	8,923,763
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額	-	-
普通株式増加数(株)	15,009	17,958
(うち新株予約権)(株)	(15,009)	(17,958)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	第7回新株予約権(新株予約権の数1,300個、普通株式130,000株)。	第7回新株予約権(新株予約権の数1,300個、普通株式130,000株)。 第8回新株予約権(新株予約権の数1,290個、普通株式129,000株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額または 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	2,022,773	-	-	2,022,773	1,304,938	39,446	717,834
構築物	72,219	-	-	72,219	58,659	1,961	13,560
機械及び装置	328,802	50,447	34,260	344,989	196,863	26,923	148,125
車両運搬具	10,705	-	-	10,705	9,392	869	1,313
工具、器具及び備品	313,149	10,504	4,841	318,813	290,627	11,681	28,185
土地	1,826,917	4,400	-	1,831,317	-	-	1,831,317
有形固定資産計	4,574,567	65,351	39,101	4,600,818	1,860,480	80,882	2,740,337
無形固定資産							
ソフトウェア	47,778	8,499	-	56,277	21,235	7,377	35,042
リース資産	107,377	-	-	107,377	88,775	9,153	18,601
電話加入権	3,471	-	-	3,471	-	-	3,471
無形固定資産計	158,627	8,499	-	159,394	110,010	16,530	57,116

(注) 機械及び装置の当期増加額は、加須工場製造装置によるものであります。

土地の当期増加額は、本社隣接地整地作業によるものであります。

【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率	担保	償還期限
第10回無担保社債	平成26年3月31日	100,000 (100,000)	- (-)	年 0.49%	無担保社債	平成30年3月31日
第11回無担保社債	平成30年3月30日	- (-)	100,000 (-)	年 0.30%	無担保社債	平成34年3月30日
合計	-	100,000 (100,000)	100,000 (-)	-	-	-

(注) 1. ()内の金額は内書で、1年以内償還予定額であります。

2. 決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内(千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
-	-	-	100,000	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	350,000	300,000	0.30	-
1年以内に返済予定の長期借入金	41,412	41,412	0.59	-
1年以内に返済予定のリース債務	11,085	11,085	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	136,609	95,197	0.59	平成32.1.31 ~ 平成35.10.31
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	24,102	13,016	-	平成32年 ~ 平成37年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	563,208	460,711	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額は次のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	39,687	19,992	19,992	15,526
リース債務	8,769	2,575	784	426

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	4,687	2,681	1,064	2,097	4,206
賞与引当金	83,621	85,476	83,621	-	85,476
製品保証引当金	16,257	29,676	-	16,257	29,675
受注損失引当金	13,454	891	-	13,454	891

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額2,097千円であります。

2. 製品保証引当金の当期減少額(その他)は、洗替による取崩額であります。

3. 受注損失引当金の当期減少額(その他)は、洗替による取崩額であります。

4. 退職給付引当金については、退職給付会計に関する注記に記載しているため、記載を省略しております。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

a. 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	878
預金の種類	
当座預金	1,215,699
普通預金	897,848
外貨普通預金	237,638
積立預金	200
定期預金	2,838,275
外貨定期預金	45,510
別段預金	690
小計	5,235,862
合計	5,236,741

b. 受取手形

イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
新東Sプレシジョン(株)	191,686
五幸商事(株)	49,859
(株)トキワ	48,422
ユアサ商事(株)	31,848
光伝導機(株)	26,576
その他	631,024
合計	979,418

ロ. 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成31年1月	348,952
2月	200,090
3月	172,968
4月	221,968
5月	35,438
合計	979,418

c. 電子記録債権

イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)山善	142,132
ヤマト科学(株)	80,901
轟産業(株)	58,921
(株)朝日工業社	53,046
(株)ダルトン	50,362
その他	416,879
合計	802,244

d. 売掛金

イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)ブイ・テクノロジー	282,871
(株)大林組	232,156
村田機械(株)	204,294
武田薬品工業(株)	95,366
(株)ニューフレアテクノロジー	83,689
その他	2,078,237
合計	2,976,616

ロ. 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
3,254,967	11,001,261	11,279,612	2,976,616	79.12	103

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

e. 商品及び製品

区分	金額(千円)
製品	
クリーンルーム	4,636
クリーンルーム機器	216,956
クリーンブース	133,441
クリーンベンチ	4,783
バイオロジカリー機器	94,718
その他の製品	36,344
小計	490,882
半製品	
HEPAフィルター	29,068
小計	29,068
商品	
クリーンサプライ商品	11,351
小計	11,351
合計	531,301

f. 仕掛品

区分	金額(千円)
クリーンルーム	141,243
クリーンルーム機器	153,503
クリーンブース	189,835
クリーンベンチ	15,464
バイオロジカリー機器	145,650
据付・保守サービス	53,913
その他の製品	35,290
合計	734,903

g. 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
モーター	81,580
HEPAフィルター材料	4,912
ファン関係部品	13,877
HEPAフィルター	31,079
その他の製品	160,419
小計	291,868
貯蔵品	
広告宣伝用貯蔵品	1,833
小計	1,833
合計	293,701

負債の部

a. 支払手形

イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日昇工業(株)	92,510
(株)テクニカルサービス	83,341
(有)ジッセン	57,898
(株)ハーベスト	39,217
(有)テクノ	38,372
その他	528,565
合計	839,905

ロ. 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成31年 1月	336,054
2月	104,132
3月	136,940
4月	153,134
5月	109,644
合計	839,905

b. 買掛金

イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)サトルネス工機	29,844
ナブコドア(株)	19,714
日昇工業(株)	17,722
万善工機(株)	14,447
プレリスタ(株)	11,558
その他	301,858
合計	395,145

c. 電子記録債務
 イ. 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)サトルネス工機	100,786
三和シャッター工業(株)	82,265
(株)トーレイ	72,315
テック(株)	69,856
日本運輸(株)	65,271
その他	1,113,258
合計	1,503,754

d. 退職給付引当金

区分	金額(千円)
未積立退職給付債務	1,003,301
未認識数理計算上の差異	240,499
合計	762,801

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(百万円)	2,228	4,623	6,855	10,190
税引前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	44	261	286	586
四半期(当期) 純利益金額(百万円)	26	189	207	410
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	2.98	21.28	23.24	45.97

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.98	18.30	1.98	22.71

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第45期）（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）平成30年3月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成30年3月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第46期第1四半期）（自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日）平成30年5月14日関東財務局長に提出

（第46期第2四半期）（自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）平成30年8月13日関東財務局長に提出

（第46期第3四半期）（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）平成30年11月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成30年4月2日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（平成30年3月28日開催の当社第45回定時株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成30年5月8日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（平成30年5月2日に取締役及び従業員に対して、ストック・オプション（新株予約権）を発行致しました結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成31年 3月28日

日本エアーテック株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石井 宏明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森竹 美江 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本エアーテック株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本エアーテック株式会社の平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本エアーテック株式会社の平成30年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本エアーテック株式会社が平成30年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

(注) 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。